

保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討 (Ⅳ) — 子どもの発達・個別理解を深める視聴覚教材の活用 —

小 山 優 子

(保育教育学科)

A Study on Improvement of the Practical Teaching Abilities in Junior College
for Nursery and Kindergarten Course (Ⅳ)

Yuko KOYAMA

キーワード：保育者養成カリキュラム Curriculum for Nursery and Kindergarten Course

発達 development 個人差 individual difference

幼児理解 infant comprehension 視聴覚教材 information technology

1. はじめに

本稿は、保育士・幼稚園教諭を養成する2年間の保育者養成における保育実践力を高めるための体系的なカリキュラムの構想を目的としたもので、「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討 (Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ)」の継続研究である。(Ⅰ)から(Ⅲ)においては、短大2年間で学生が学ぶべき保育理論に関する知識や、様々な実習で作成する部分指導案や日案などの指導計画の書き方、就職後、担任保育者が日常的に作成する月週案や年間計画の書き方、保育日誌や子どもの経過記録、要録等の保育記録の書き方などの知識・技能の習得を目的とした教育方法を検討してきた。これらの習得の根底にあり、保育の計画記録文書を作成する際に必ず押さえておく必要があるのが、「幼児理解」「子ども理解」の実践的理解である。子どもの保育をする際にも、乳幼児の発達理解や個別理解が分かっていないと、子どもへの適切な指導・援助ができないため、どの養成校でも学生に教授する内容である。ただし、子ども理解の理論が実習中の子どもの姿として結びつかない学生や、保育理論を保育実践に落とし込めない学生も

おり、学生が保育の実際から子どもたちの姿をとらえて幼児理解を具体的にできるようになる必要がある。その際、養成校で幼児理解の深めるために活用できるのが保育実践に関するビデオやDVDであり、現在は、乳幼児・保育に関する様々な専門的な保育のDVD教材が販売されていたり、テレビ放送でも番組が作成・放送されている。これらの視聴覚教材を使い、学生に幼児理解や個別理解の深化のための保育者養成校におけるカリキュラムの検討を本研究の目的とする。

2. 研究方法

保育者養成において幼児理解・子ども理解の方法は保育者になる学生が必ず習得しなければならない事項であるが、具体的な幼児理解・子ども理解とはどのようなことなのかは、講義だけではイメージしにくい部分がある。養成課程の様々な保育の専門科目の中で、子どもの発達や個々の様々な子どもの様子を見る中で子どもの姿の一事例として理解の方法を学ぶことが大事であるが、学生に保育・発達のDVDを見せるだけでは何を理解するのかを認識で

きないことがある。そのため、以下に示したDVDについて、学生に読み取ってほしい子どもの発達や個別の姿を、DVD視聴の際に子どもの行動の解釈として解説したり、子どものエピソード記録と捉えて学生同士で話し合う中でその視点を出し合い、子どもの発言や行動を理解することを深める授業が必要である。このように、子どもの発達理解や個々の子どもの日々の姿から個人差を理解する個別理解の方法を学生が身につけることを目的とし、保育者養成における子ども理解を深める視聴覚教材の活用方法のあり方を検討する。

1) 対象

保育学科の1・2年次の学生を対象とし、2年間における保育の専門科目のカリキュラムや授業内容を分析した。本研究の対象としたのは、平成27～29年度までの3年間分の授業実践である。

2) 分析方法

研究方法は、「保育原理」「保育内容総論」「保育者論」「保育課程論」「教育方法の研究」「教育実習指導」の講義の中で乳幼児期の子どもの発達・保育に関するDVDを学生に視聴させ、学生はワークシートにメモを取りながら視聴する。講義を行いながら、子どもの発達や個人差などの特徴を読み解くためのDVDの見方なども補足で話しながらDVDを視聴する。授業の最後には、DVDをみた感想や意見を、具体的な場面を挙げながら考察するなどのレポート課題を出した。これらの授業実践を踏まえ、授業を通して理解してほしい点を学生が理解できているかをレポート課題から確認した上で、DVDに見られる3～5歳児の子どもの発達過程と個別理解の必要な子どもの姿を構造化した。

3. 子どもの発達理解・個別理解のDVDの分類

1) 取り扱うDVDの内容と理解する視点

以下のビデオやDVDは授業の中で子どもの発達や個人差を実際の子どもの姿から知り、幼児理解・個別理解を深めるために講義の補助として学生に視聴させたDVDである。DVDの中にはかなり古いもの

もあるため、類似内容の新しい撮影時期のDVDがあればそちらの方がふさわしいと考えるが、本研究はDVDの内容を分析することが目的であるため、あえて古いDVD¹⁾も活用する。また他の教員の授業で視聴するDVDは重複視聴しないように配慮している。

(1) 「赤ちゃん—成長の不思議な道のり(49分)」²⁾

このDVDは、生後から1歳頃までの乳児の発達の実際と人間の可能性をアオイの発達の姿から明らかにした内容である。生後3ヶ月頃の子どもは、2人の異なる大人の顔だけでなく2匹の異なるサル顔も区別できる能力を持っていたり、世界のあらゆる言語の微妙な発音の違いも聞き分けられる能力を持っている。しかし9か月頃を境にその能力は消滅していくのだが、それはその子どもが育つ環境に適した脳のシナプスのみが発達し、生活する上で必要な能力のみが限定的に磨かれて発達していく人間ならではの戦略方法だと考えられる。また子どもの言語獲得の過程では、9ヶ月の子どもに外国語をビデオ学習の方法で実施してもその効果は見られないが、ビデオ学習と同じ内容を教授者と子どもとの直接的な対面学習の方法で行うと外国語の習得効果が高くなったりすること、アオイも同じ月齢の子どもと直接関わると、1・2日後に今までできなかったお座りや寝返り、ハイハイができるようになる姿など、社会的な人との関わりが子どもの発達や学習を促すのに極めて重要であることが示されている。

(2) 「あそびの中にみる1歳児(31分)・2歳児(30分)・3歳児(30分)」³⁾

このDVDは、アヤの0歳から4歳前までの発達の姿を縦断的に追ったものである。アヤが保健センターで遊ぶ様子や公園にでかけて遊んでいる様子から、アヤの運動発達、対人関係の発達、情緒的発達、言葉の発達など、成長の過程が見られる。

(3) 「3年間の保育記録(全4巻)」⁴⁾

このDVDは東京学芸大学附属幼稚園に3歳児から入園したりョウガの卒園までの3年間の保育記録

である。3歳児4月の母親と離れられない不安な気持ちをもちながらも、担任保育者との間に信頼関係を築く中で園生活に少しずつ慣れていく様子や、3歳児2学期には先生や友達との遊んでいる遊びに興味を持ち、マコトと一緒に砂場で遊ぶ姿を見せるが、紙を丸めて剣を作ろうとしても上手にできずに「できない」と投げ出して泣いてしまう姿などが見られる。4歳児では新しい担任の先生との関係性の中で安定しつつ、遊びに誘われても「やだ」「見てる」などと拒否反応や自信のなさも含んだ態度をしている状態から、だんだんと遊びに参加し、友達と一緒に遊ぶことの楽しさやうれしさを感じるようになっていく姿、2学期にはリョウガが他児との関わりを深めるために先生がリョウガに距離を置いた関わりに対し、お弁当を食べない、運動会の活動に参加しないといったストライキの反応を示す姿、3学期にはクラスの子どもたちと一緒に遊ぶ姿が見られるようになった様子が描かれている。5歳児では「くろひげレストラン」のcockさんを友達と一緒にしたり、子ども会に向けて友達と同じ探検隊のグッズを作ったり、探検を演じたりする姿、友達と園庭を走り回って遊びを共有して遊ぶ姿などの成長の過程が見られる。

(4)「新しい生活が始まって(20分)」⁵⁾

このDVDは、3歳児5月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。幼稚園に通い始めて1か月。登園時、保護者と別れて泣いているアヤサに対し、保育者はだっこをし、気持ちを安定させる関わりをしつつ、身の回りの片付けや身辺整理をする。次第にアヤサの気持ちも落ち着いてきて、保育者と保育室の製作コーナーと一緒にいる。保育者が「カバン邪魔でしょ」と片付けるように促すが、アヤサは「邪魔じゃない」とずっとカバンを下げたままである。

遊びの後の片付け終わった保育室内で男児がロッカーの上のソフト積木を出そうとする。女児が「ダメ」「(片付けたから)もう出さない」と言い、怒った男児との間で積木の取り合い、たたき合いになる。保育者は「どうしたの?」と周囲の子どもたちに聞

くが、誰からも明確な答えは返ってこない。

遊びの時間が終わったあとの片付けの時間。園庭の砂場で遊んでいた子どもたちに「片付けよう。おうちに帰ろう」と声をかけるが、女児は「ヤダ」と言って遊び続ける。保育者が「片付けよう」「作ったものをロッカーの上にとっておこう」「ミッキーのビデオが終わっちゃうよ」と片付けるようにいろいろと誘うが、子どもたちは「ヤダ」といって片付けずに遊び続ける。

(5)「3歳児の世界(23分)」⁶⁾

このDVDは、入園当初の3歳児6月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。保育者はカブトムシの飼育ケースのまわりに子どもたちが集まってきたので、みんなに見えやすいように小さい飼育ケースから大きい洗面器にカブトムシを移し替えた。その洗面器をユウが保育室から遊戯室やトイレに持ち運び、他児がユウに対して「ダメ」と言ったりしながら洗面器の取り合いになっている。その後シリウとマサタカの間でも洗面器の取り合いが生じている。

年中クラスのおみこしを借りる許可を得て、3歳児の子どもたちと保育者でおみこしを担いで遊ぶようにしているが、マサタカは「だめ」を繰り返す。保育者が「おみこしの飾りがユラユラするのが嫌なの?」「みんなと一緒に嫌なの?」「肩にかつがないから嫌なの?」とマサタカの嫌な理由を探りながら聞くと、「だめ」の一点張りでマサタカ以外の子どもはおみこしを担いで「わっしょいわっしょい」と言いながら動かしたいのにおみこし遊びができない。結局、みんなでわっしょいと言いながら担いで遊ぶが、マサタカは「ダメ」をくり返ししながら静止しようとしたり参加したりする。

(6)「だってやりたいんだもん(20分)」⁷⁾

このDVDは、4歳児6月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。保育室でカズがブロックを独り占めして遊んでいるのに対し、ケンタ

が「ダメだよ」と言っている。カズは「だってやりたいんだもん」ケンタ「ダメ」と言い合いが続く。保育者が通りかかった時、カズはブロックの入っていたカゴでケンタの頭を何度もたたき、ケンタはカズの体にかみつく。保育者が「それはダメ」と2人を引き離し、ケンタにかむことを注意するが、カズは大泣きする。

保育室の中で大型積木の家を作って遊んでいる4人の子どものたちのところにカズと保育者がやってきて、カズが「入れて」と言う。男児が「カズくんはダメ」「ヤダ」と言うと、カズはその男児を何度もたたき。保育者がカズに「ぶたないで口で言ってごらん」と言うが、カズは家に無理矢理入り、他児に頭突きをしたりし積木の家が壊れたりする。保育者が「ここ最初に作ったのはトシナリくんだよ」と言い積木の家の外で話をするが、カズは「ヤダ」と泣きわめいて暴れ、保育者をたたき。保育者がいなくなった後、カズは再度積木の家に来て中に入ろうとするが、他児に「ダメ」と拒絶され、「カズくん壊さないで」と積木の取り合いになる。カズは「ヤダ」「入りたい」と言いながら大泣きする。

(7)「せんせいだいすき(20分)」⁽⁸⁾

このDVDは、入園1か月後の4歳児の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。ナオは遊びの場面でも生活の場面でも、いつも先生のそばにいて先生に関わりを求める姿がある。遊びの時間には保育者の側にいて、保育者の顔にぬいぐるみをくっつけて話しかけたり、片付けの場面では保育室にあった他のクラスのイスを担当に見せに行き、保育者が「これ片付けてくれるの、ありがとう」と言われてうれしそうに片付けに行く。お弁当の時間には、先生がお弁当を食べる隣に自分の席を準備している。クラス全員で「いただきます」と号令をかけ、みんながどんどんお弁当を食べ進める中、ナオは座ったままじっと先生を待っている。保育者がクラス全員のお茶をつぎ終わって自分の席に戻ってきてお弁当を開けると、ナオもお弁当も開け、やっと保育者と一緒に食べ始める。

(8)「友だちと出会う(22分)」⁽⁹⁾

このDVDは、入園2か月後の4歳児5月の子どもと新任保育者の保育の様子が収録されている。クラスの男児が色画用紙を丸めて同じような武器を競うように作っている。ダイスケはいつも同じ形の武器を作り、友達や保育者に「6コもあるだろ、すごいだろう」と自慢している。保育者は「6コもあってすごいね」と共感しつつ、「どれが強い武器なんだろう」「どの武器が新しいのかな」とダイスケにつぶやくように聞いても、6コも7コもあると個数にこだわって作った武器を見せに来ている。

武器を作って戦いごっこをしている男児たちが、テラスでシャボン玉をしていたリナを見つけ、シャボン玉を壊したりリナを通せんぼする。リナが保育者に泣きながら訴え、保育者はダイスケにリナの嫌な気持ちを代弁するが、ダイスケは「シャボン玉は敵だ」と言いリナの気持ちに気づかない。またダイスケたち男児が箱ブランコに乗っていると、「仲間に入れて」とやってきたヒロキに対しダイスケは「かわいい人は入れない」「男っぽい人しか入れない」と仲間に入れることを拒否する。保育者が「ヒロキくんも十分男の子っぽいよ」と言ってもダイスケには伝わらない。

電車ごっこができるように、保育者は園庭に線路を描き、2人乗りのフープの電車を出した。ユウダイはアツトシとは楽しそうに電車に乗り、順番待ちのイスではアツトシと一緒に乗れるように待っている。しかしアツトシはユウダイと乗りたいというわけではなく、ユウダイが先頭に乗り込むと乗るのをやめてしまう。

(9)「ふたりだったらチョーさみしそう(24分)」⁽¹⁰⁾

このDVDは、入園当初の4歳児6月の子どもと保育者の保育の様子が収録されている。男児4人は登園してくるといつもブロックで武器を作り、一緒に遊び始める。ヒロキがキャタピラのような段ボールを見つけ、男児たちが一緒に入って「石焼き芋～」と言いながら段ボールに乗って移動する。保育室の

廊下に来ると、キャタピラ状の段ボールの中に男児たちが入るが、「石焼き芋～」と言いながら段ボールの上に乗る男児が出てきて、中にいた子どもたちが下敷きになって「どけて」といざこざになる。

アキヒロとケイタなど5人の男児が保育室の中の積木で家を作り始める。アキヒロが「お父さんはあっくん。ケンタくんはお兄ちゃん、ユウタロウはバブちゃん」「ここ今工事中」などとアキヒロが一方的にイメージを言いながら遊びが始まっている。そこへヨシタカやヒトミが「入れて」とやってくると、アキヒロたちが「だめよ」と言う。ヨシタカは「いじわる」、ヒトミは「そんなのずるいよ」と言いながら両者で言い合いになる。「そうだ」とヒトミは勝手に積木の家を広げ始めるとアキヒロは「そういうのやだー」と言い、他の男児は「いいよー」と言う中で、アキヒロとヒトミは積木の取り合いをする。保育者がやってきて話を聞くと、ヒトミが「みんなが入れないから入れるようにしたらあっくんはだめっていうの」と言う。保育者は「あっくんの考えがあるんだね。あっくんはどうしてだめなの？」と聞くと、「あっくんは同じままがよかった」と言う。ヒトミは「そうしないとみんなが入れないじゃない。みんなが入れないとかわいそうじゃん」と言うと、保育者は「でもこのおうちに最初住んでいたのはあっくんとユウタくんたちだよ」、ヒトミには「ヒトミちゃんだけの考えで進めてたんじゃない」と言う。その間、他の男児2人は積木の家の中にいながら積木にひじをついたまま話し合いの会話には全く参加していない。保育者が去った後、ヒトミとヨシタカはその他の男児を引き連れて少し離れたところに積木の家を作ろうとし、残ったアキヒロとたちは「2人だったらチョーさみしそう」と言う。

(10)「教育実習・幼稚園 保育を学ぶ(58分)」¹¹⁾

このビデオは、5歳児6月の子どもと保育者、教育実習生の保育の様子が収録されている。芋植え遠足に出かけた男児2人が遊んでいた時のこと。「ボクシングごっこをしよう」と言い、コウスケが「ボクシング」と言いながらパンチをしたところエイタ

の顔に激しく当たってしまい、エイタが「もうおまえなんかと遊ばない。おまえなんか嫌いだ」と怒ったため、コウスケが泣きながら保育者に訴えている。コウスケは「わざとじゃなくて、間違えてぶっちゃった」「自分がいけなかった」と言ったため、保育者が「それならエイタくんに伝えにいこう」と言い、エイタとコウスケがお互いの気持ちを伝えられるように保育者が仲介する。そこへ他児が来て、「なんで(たたいた方の)コウスケくんが泣いてるの?」と不思議そうに保育者に聞いたため、保育者は「何か悪いことをしちゃったなと思って、心が悲しくなったの」とコウスケの気持ちを代弁する。

(11)「ちっちゃいけどいい?(22分)」¹²⁾

このDVDは、5歳児の夏休み明け2学期9月の子どもと保育者の保育の様子が収録されている。チカは大型積木でリアンとチナとおうちごっこやおばけ屋敷ごっこをしている。翌日もチカはおうちごっこを始めるが、リアンは誘われていたリレーに行こうとする。チカはリアンに「リレーの仲間になるなら明日のおうちごっこに入れない」と強く言い、結局リアンはリレーを諦めおうちごっこに入る。チナとナナもおうちごっこの仲間に入り、おうちはおばけ屋敷になるが、おばけ屋敷のイメージを出すため、チカが積木をガタガタさせるとリアンが積木で頭を打ってしまう。リアンは泣くがチカに言えないため、保育者がリアンに痛かったことを伝えるように促し、リアンもチカに伝える。次の日、リアンが保育室の床にビニールテープを貼り、チナと3人の女児でゴロゴロごっこをしようすると、ショーをした男児と、おうちごっこの積木のチカと場所の取り合いになる。リアンは「チカちゃんに怒られる」と言ったため、保育者が場所の調整案を提案し、各々の活動ができるようになる。1人で積木のおうちを作っていたチカもリアンたち3人のゴロゴロごっこが気になり、そばに来ては「審判なんか必要ないよ」などと言っている。別の日、チカたち5人の女児でおうちごっこを始め、家の中に一人ひとりの部屋を作る。作りながら、チナ「私の部屋がない」リアン「部屋が狭い」などといざこざになるが、最終的に

チカが新たに家を広げることで2人の部屋ができ、
 女兒たちそれぞれの思いが実現される形で遊びが進行する。

(12)「いっしょにやろうよ(35分)」¹³⁾

このDVDは、5歳児の2学期後半の子どもと保育者の保育の様子が収録されている。5歳児33人のクラスは子ども会でグループに分かれて出し物をするようになった。ハルカたち7人は人形劇をすることになり、人形を作ったり、背景やお弁当箱などの小道具を作ったりしている。ユメノが空箱におり紙でおにぎりなどを作って、お弁当箱を製作している。そこへサワが来て「それ大きいからみんなにも分けてくれない?」「そういうのいいなー、それユメノちゃんとサワのでいい?」とユメノの作ったお弁当箱と一緒に使いたいと言う。ユメノは「じゃあ2人で食べるよ。でも本当はウチのだよ。貸してあげるだけだよ」とこれは自分のお弁当箱であることを主張する。また人形劇で動物園の絵を模造紙に描くことになったが、ハルカは少しだけ描いて別の場所に行ってしまう。サワは「ハルカちゃんだけやんないの。さぼってばかりだよ」と言い、ハルカは「1コだけ描いたからいいじゃん」と言い、結局ハルカが泣き出す。きつく言ったナナカが泣いたハルカを見て「ごめんね」と謝るが、保育者はハルカにも責任を持ってみんなで協力して進めるよう伝える。

(13)「裸で育て君らしく(48分)」¹⁴⁾

このDVDは、大阪府のアトム共同保育所の年長5歳児1年間の保育の記録である。ジャングルジムで「仲間に入れて」と言った女兒のユウキに対し、リクトたちは「ダメ。ユウキ以外はいいい」と言い、仲間はずれにされる。保育者が「嫌な気持ちされたとき嫌じゃないん?」「友達と一緒に遊びたくないの?」と聞いても「さあね」と気持ちを素直にしゃべらず、一人遊びが多いユウキ。クラスには主役の子が今日何をするかを決める日があるが、ユウキの番の時に集まりの場で保育者が聞くと、「まだ決まってないんだよねー」と言う。子どもたちはええっという反応をし、保育者が「恥ずかしいのは分

かるけど、好きなことを(堂々と)言わない」と言う。と、「かくれんぼ」とユウキが言う。お昼寝時に保育者がユウキに思いを聞くと、「友達と遊びたいけど遊べない」と言ったため、保育者は「それなら自分の気持ちを伝えた方がいいよ」と助言する。3週間後、ユウキがナナカと言い合いをする。ユウキが「ナナカの言葉がユウキには悪口に聞こえるんや。アトムは楽しくなくて言えなかったんや」と大泣きしながら伝える。保育者は「ユウキの気持ちがよく分かるわ。よく言えたね」と共感する。その後ユウキは少しずつ自分の気持ちを伝えるようになり、他児との関わりが増える。お泊り保育の日、ユウキが熱を出して一度自宅に帰るが、夕食をみんなと食べたいと言って再度園に連れてきてもらう。戻ってきたユウキにナナカが「ユウキ風邪?病院行ったん?」、他児も「あったかいカレー食べて」と言い、うれし恥ずかしそうにするユウキ。9月の運動会の時のリレーで、ユウキが男児を抜かしてチームが勝ったことから、ユウキは足が速くてすごいと周囲の子どもたちから認められユウキも喜ぶ。その後の日常の缶蹴り遊びの中でも他児が足の速いユウキに助けを求めたりし、ユウキが子どもたちの遊びの輪の中にしっかり入って遊んでいる姿が見られる。

リクトとユウマは1歳からアトムに通っており、家も行き来するほどの仲良しでいつも一緒に遊んでいる。運動会が出る種目は子どもが自分で決めて披露するが、ユウマは竹馬、リクトは縄跳びに出ると練習を重ねている。リクトはユウマの様子を見ながら運動会の4日前に急に竹馬に出ることに決め、猛練習を始める。竹馬に変えたリクトに対し、ユウマは「君、弱っちいね」と競争心を表し、リクトは足に血豆を作るほど練習を重ねる。運動会当日はほぼ同時にゴールした2人だが、ユウマは「同時だった」、リクトは「今ユウマを抜かした」と言う。運動会後、2人はケンカを繰り返すようになり、また殴り合いの激しいケンカをする。保育者は「ごめん、いいよ、で済ますのではなく、ケンカにならないための話し合いをしい。お互いの気持ちを伝えるまでは保育室に戻ってこなくていい」と2人に言う。2

人は40分近くじっと黙ったままそばにいるが「リクトはからかわんといてな」「ユウマはどつかんといてな」とお互い二言だけ交わし、保育室に戻ってくる。その後、激しいケンカはなくなり、元の友達関係に戻っている。11月、リクトの母親が流産を防ぐ手術をするため入院する。リクトは3人兄弟の真ん中だが、母親が2度流産したため自分にはさらに2人のきょうだいがいると言っており、次に生まれてくる弟妹を心待ちにしている。0歳児クラスに頻繁に来ては赤ちゃんにミルクを飲ませたり世話をしているリクトに対し、保育者が「リクトは赤ちゃんにはやさしいわー」と言うと、リクトは「赤ちゃんは悪くない」と言う。保育者が母親の様子を聞くと、涙が出るリクト。別の日、クラスみんなで草原の坂でソリ滑りをして遊んでいるが、リクトは母のことが心配で1人でぼつんと立っている。それにユウマが気づき、「これ貸したるわ」とリクトにソリを貸してあげる。リクトはユウマのソリで遊び始めるが、滑った後、出てきた涙をぬぐっている。3月、卒園式を迎える。アトムに来る最終日、2人は別々の小学校に進学するためリクトはユウマと名残惜しそうに最後の別れをする。

(14)「主体的な遊びで育つ子ども(60分)」¹⁵⁾

このDVDは、広島県の私立幼稚園での保育実践のDVDである。園にはコマ回しコーナーがあり、園長の目の前で5回連続コマ回しができると自分の名前が書かれたコマがもらえる。ダイキは最初コマ回しができなかったが、練習を重ねる中で少しずつ連続して回せるようになってきた。園長に声をかけて5回連続チャレンジに挑戦するが、さっきまでうまくいっていたのに何度挑戦しても緊張からか成功しない。さらに数日後、改めて挑戦する際、友達が応援してくれる中で、ついに5回目を成功する。ダイキは思わずガッツポーズをし、自分だけのコマを園長先生からもらいじっと見つめて喜びをかみしめている。

年長クラスでは長縄跳びをする子どもが多い。ユリは1702回の新記録を達成し、友達から祝福され

てうれしそうにしているが、その後アヤナが挑戦し、アヤナがユリの記録を更新すると、ユリはその場から立ち去り、誰もいない教室で一人のみすり作業をし始める。友達がユリを追いかけてきて気遣い「自分が跳びたいと思ったらがんばればいいよ」と励ます。集まりの時に保育者が長縄跳びの話をした際、ユリが涙を浮かべている様子を友達が発見し、保育者は「悔し涙はいい涙」であることやアヤナの記録はユリがいたから頑張れたこと、1人の力で達成された記録ではないことを話す。数日後、保育者は日付と回数を記録できる個人用の記録カードを作り、人との競争ではなく日々の自分のがんばりが分かるようにした。その後、ユリは新記録者となったアヤナに「1000をぬかそう」と話しかけ、2人で一緒に長縄を跳んで新しい記録に挑戦し始める。

2) DVDの分類

これらのDVDは、一人の子どもを長期的・縦断的に撮影しその成長・発達をみるものや、年齢別クラスの保育の中での子どもたちの発達特性や子ども個別の様子を断片的に捉えたものである。また子どもの姿にも、一般的な発達特性として理解できるものや、子どもの性格や個人差による多様な姿として理解できるものがある。以下、発達と個別理解の観点から分析と考察を行う。

4. 子どもの発達・個別理解の分析・考察

1) 子どもの発達理解の視点

これらのDVDの中には、0歳から5歳児年長までの乳幼児のさまざまな成長・発達の姿が見られる。

(1) 子どもの心身の発達

子どもの心身の発達の姿が見られるDVDは、(1)「赤ちゃん」(2)「あそびの中に見るシリーズ」(3)「3年間の保育記録」(以下DVD名は省略)で顕著にみられる。運動発達や言葉の発達、意欲などの心の発達、対人関係・コミュニケーション力の発達など、様々な子どもの育ちが実際の保育の場面で見られる。また(3)(4)(9)(13)のDVDに見られる遊びの製作活動の場面では、入園当初はハサミの

持ち方やセロハンテープのつけ方など、ぎこちない手指の動かし方の様子が見られるが、年長ではお弁当の具材を自分のイメージ通りに製作できるようになるなど、子どもの遊びを通しての発達の姿なども見られる。またケンカの場面でも、(6)の3.4歳の入園当初、物の取り合いや仲間に入れてもらえない場面で、泣いたり癇癪を起したり、相手をたたいたりかみついたりする姿から、(10)(13)の園生活を重ねる中で自分の気持ちを言葉で伝えたり、自分で悪かったと実感し謝ったりする姿などの育ちも見られる。(5)のカブトムシを一人占めしたい、遊びでこうしたいといった、自分の思いを通すという3歳児の自己中心的な発達段階から、(12)の動物園の絵を描きたくないが、同じ人形劇のメンバーなのでみんなで協力して活動しようとする他児の気持ちに気づき、行動していく協同性を身につける発達段階への育ちが見られる。

(2) 子どもの園生活への適応・生活リズムの習得

DVDには3.4歳児の幼稚園入園当初の様子が多数あるが、(3)(4)のように登園時に保護者と別れて泣き続ける中、保育者にだっこされたり声をかけられたりする中で情緒が安定し、園生活になじんでいく様子や、登園後バッグを自分のロッカーに片付けたりする身辺整理を覚えていく姿などが見られる。また(5)のお弁当を食べ終わると1人で身支度をして幼稚園の門から脱走して帰ろうとする3歳児入園当初の姿や、(4)の片付けの時間になっても「ヤダ」と言って片付けない3歳児の姿から、(10)(13)の園生活を重ねる中で生活リズムを身につけ、しなければならない活動や一斉活動を通して規律やルールを理解し、子どもが主体的に行動できるようになる5歳児の発達の姿なども見られる。

(3) 対人関係・仲間意識の発達

保育の中での遊びを通して、子どもたちは他児と一緒に遊ぶことの楽しさを知るが、最初は楽しそうな遊びややりたい遊びを見つけ、遊びに参加する中で一緒に場所や活動を共有した子ども同士で自然と一緒に遊ぶ関係性が出来てくる。その中で、(6)

のカズのように遊んでいる中で他児をたたいたり遊びを壊したりする子どもがいると楽しくなくなるため、仲間に入れたくないといった思いも生じる。(13)のユウキも自分の思ったことを他児に言わないことなどから、他児が遊びたくないと言っていると思われる。他者と一緒に遊ぶためには、相手の気持ちにも気づくことが遊びを共有するために必要な能力になり、それを学ぶ機会となるが、同時に子どもたちだけでうまく遊べない場合は、保育者が子ども同士の違いを伝えて一緒に楽しく遊べるように仲介する役割も場合によっては必要である。また他児と同じ遊びを同じ子ども同士で重ねる中で、(8)(9)のユウダイやアキヒロのように「〇〇と遊びたい」「いつも一緒にメンバーで遊びたい」という気持ちが育ち、二人組やいつも遊ぶ子ども同士で強い結束ができる。このように「〇〇と遊びたい」という人に対するこだわりは、同じ遊びのイメージを共有したり、遊びをより発展させるためには必要なことであるが、それが行き過ぎると「〇〇を入れたくない」と他児を排除したり、閉鎖的な人間関係を形成することにつながる。さらに(11)の女兒たちのように、特定の子どもの人間関係の中で強い力を持ち、命令したり他の子どもが遠慮して意見を言えない関係性が構築されると、いつも同じメンバーで遊ぶことが強要され、今日はこれをして遊びたいという一人ひとりの思いが実現できなくなることから、保育者は子ども理解の際、子ども同士の力関係や人間関係の健全性などのグループ・ダイナミクス(集団力学)を配慮する必要がある。

2) 子どもの個別理解の視点

(1) 消極型の子どもの特徴

子どもの中にもいろいろな性格の子どもがいる。(3)のリョウガも「できない」「ヤダ」「見てる」など、遊びや活動に対する拒否反応や状況把握をしづらくした後に少しずつ参加する姿が見られ、消極型の子どもの¹⁶⁾の特徴と考えられる。(7)のナオも保育者の側にいつもくっついていて、先生と同じでないと行動できないなど、リョウガと同じく不安や自信のなさからくるものだと思われる。また(10)の

幼稚園(保育所・認定こども園)における3歳児・4歳児・5歳児の子どもの発達		子どもの個人差・個別理解の視点	
子どもの運動発達、認知発達、言葉の発達、社会性(対人コミュニケーション)の育成、 子どもの思考力や探求心の発達(健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域の育ち)	【3.4歳児の入園当初の姿】 ・不安な気持ちを持ちつつも園生活に少しずつ慣れ、嫌がらずに登園する。 ・先生や友達に誘われたりしながら遊び始める。 ・自分の好きな遊びを見ついたり、様々な遊びを経験する。 ・ケンカの場面では、先生に各々の気持ちを受け止めてもらい、悲しい気持ちなどを回復する。 ・身辺整理やお弁当・給食などの準備、片付け、集まりなどの園生活の仕方を理解する。	子どもの個人差・個別理解の視点 【積極型の子どもの姿の例】 ・悪い通称にならないと相手をたたいたり、かんだりする。 ・遊びの中で「〇〇を遊びに入れない」など特定の他児を排除しようとする。 ・自分が優位に立ちたいと相手を卑下したり、からかったり、相手の嫌なことを言う。 ・遊びや行事での取り組みで、他児よりも勝ちたい、自分が一番になりたいたいという気持ちを持つ。	
	【3.4歳児の発達の姿】 ・好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊びに使う道具や場所を一人占めしたいという気持ちが生じる。 ・「〇〇と遊びたい」など、対人関係へのこだわりが生じる。 ・自分のやりたいことだけする姿や、相手に嫌に感じる発言や行動に気づかない。 ・ケンカの場面では、先生の仲介によりお互いが納得するようになる。 ・遊びのルールや園のきまりを理解し、守ろうとする。	【消極型の子どもの姿の例】 ・朝の登園時、保護者と別れられずに泣いたりする。 ・保育者の側を離れず、保育者と同じでない集団行動ができない。 ・「ヤダ」「できない」「見てる」など、自分から活動に参加しない。 ・自分の思いを相手に伝えることができない、相手に嫌なことをされても嫌と言えない。	
	【4.5歳児の発達の姿】 ・自分のできるようになったことに対する誇らしさや自信を持つ。 ・特定の友達や複数の子ども同士で共通のイメージを持ちながら遊ぶことを楽しむ。 ・ルールや規範を理解し、主体的に遊びや生活を進めることができる。 ・ケンカの場面でも、子ども同士で解決できることが増える。 ・グループでの活動や当番活動、協同的な遊びを進める。 ・グループ活動で看板や背景に絵や文字を書いて表現し、活動に必要な準備をする。 ・発表会や行事に向けて、他児と協力して協同的な活動を進める。 → 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を身につける	・朝の登園時、保護者と別れられずに泣いたりする。 ・保育者の側を離れず、保育者と同じでない集団行動ができない。 ・「ヤダ」「できない」「見てる」など、自分から活動に参加しない。 ・自分の思いを相手に伝えることができない、相手に嫌なことをされても嫌と言えない。	
幼稚園教育(幼児教育)において育みたい「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の育成		・友達に嫌いだなどと言われ、ショックを受けたり傷つく。	

図1. DVDに見られる3～5歳児の子どもの発達過程及び個別理解の必要な子どもの一例

コウスケのように、攻撃する意図はなかったのにそうしてしまった自分に傷ついたり、仲良しの相手に「おまえは嫌いだ」と言われショックを受けて泣いたりするなど、打たれ弱さや経験の少なさによる子どもの姿なども見られる。また(13)のウウキのように、はずかしくて自分の気持ちを素直に言えない子どももいる。そのため、様々な子どもの性格特性・行動特性に配慮しながら、保育者は子どもと行動を共にしたり、隠している思いを探ったり聞き出したり、発言するまで待ったりみんなの前で話す機会を設けたりすることも必要である。

(2) 積極型の子どもの特徴と子ども間の競争心の育ち

子どもの中には上記の消極型の子どもがいる一

方、攻撃的であったり、自己主張が強い積極型の子ども¹⁷⁾もいる。(6)のカズのように、ケンカの場面でたたいたりかんだりして自分の思いを表そうとしたり、(8)のダイスケのように遊びに入れないと他児を排除したり、(13)のリクトのように相手をからかったり非難するようなことを言ったりする子どももいる。

また自分のすごさを人に伝えたり有能感を味わいたい子どももいる。(8)のダイスケは同じ武器を6コも7コも作り、「すごいだろー」と他児や保育者に何度も言っており、武器を作れたことのうれしさや武器を多く持っていることのすごさを人に伝えたい気持ちが読み取れる。また(13)のリクトとウウマ

の運動会での競争心の芽生えは、人に勝ちたい、優位さを感じたいといった気持ちの表れであり、(14)のユリの縄跳びの記録を抜かされてくやしいといった気持ちは頑張りの上で出てきた感情である。競争心は、相手を卑下したり見下したりするための競争ではなく、よい形で働く子どもたちが集団の中で切磋琢磨して今ある能力をさらに伸ばす機会になるため、年中・年長の保育では重要な視点であるといえる。一方、(14)の長縄跳びの実践から、保育者は人との競争ではなく、自分の中での成長やがんばりを子ども自身が認識するための保育に変えていることも着目すべき点であると思われる。

3) 保育者に必要な子どもの発達理解と個別理解

DVDに見られる子どもの姿のうち、特に3～5歳児に特徴的な各学年で育ってほしい子どもの姿やねらいとなる子どもの発達過程をまとめたものが図1である。3.4歳で初めて集団生活を開始する幼稚園等と低年齢児から集団生活を経験している保育所等との違いはあるが、まずは子どもが園生活に慣れ、園のルールに従って生活することができるようになる園生活への適応の時期から、好きな遊びや先生・友達を見つけ、ケンカなどの対人関係上のぶつかり合いも経験しながら、遊びや生活の楽しさや他者と共有する喜びを味わう時期、さらには遊びや園生活のルールを作ったり自律的に守ったり、遊びや生活で責任感をもって進めたり、グループや当番活動、クラス集団での活動や協同的な活動に取り組む時期などの発達のプロセスがDVDの多数の子どもの姿から見られた。これらは、平成29年改訂『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』¹⁸⁾等 に示された、幼稚園教育(幼児教育)において育みたい「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等の基礎」の育成につながり、最終的には幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の実際例をDVDの子どもの事例から学生が知る学びの教材になったといえる。

さらに3～5歳児の一般的な子どもの発達過程のみならず、この姿から外れていたりその姿に達していない個別理解の必要な子どもの一例についても、

積極型の子どもと消極型の子どもに分類して図1に示した。このような子どもは、子どもの性格や特質による個人差だけではなく、未熟さや経験不足に起因する要素も大きい。様々なタイプの子どもがいることを理解しながら、育てたい子ども像に変容していくように保育者が粘り強く働きかけることが保育の本質である。3歳以上児の学年制クラス編成における子どもの1年の月齢差は大きく、さらに同学年の中での子どもの個人差も大きいために子ども理解は困難さを極めるが、日々の保育の中で見せる子どものリアルな姿を踏まえて子どもの発達理解や個別理解を深化させることが、よりよい保育者としての資質能力を高めることにつながると思われる。

5. おわりに

子どもと保育のDVD視聴を通して、保育者に求められる子どもの発達理解や個別理解を学ぶための視点とその方法を分析した。DVD視聴後に学生が書くまとめレポートの内容を見ると、具体的な子どもの姿を踏まえての3.4.5歳児の発達特性や個別特性を学生が理解していることが伺えた。その際、教員の解説があったから子どもが今何を感じているのかという内面を理解したり、なぜそのようなことをするのかといった子どもの行動や発言の解釈ができるようになったと記述した学生もいた。このように学生に子どもを理解するための読み取りの視点を提供することが、実際の子どもたちに直面した際での子ども理解のヒントになると思われる。さらに学生の子どもを見る目が育ってきた段階で、DVDの解説をせず、学生同士のグループワークで話し合いながら子どもの姿を読み取る学習など、学生自らが子ども理解・個別理解の能力を高めていくための方法も有効な保育者養成の教育方法になると思われる。

注・引用文献

- 1) 古いビデオも視聴するため、学生から「昔の子どもと今の子どもは違うのか」との質問も挙がるが、今も昔も変わらない部分と変わっている部分があり、古いDVDの子どもの姿も多様な子どもの個別特性や発達特性を表している

ものとして捉えるように学生に補足説明をして授業では活用している。

- 2) 「NHK スペシャル赤ちゃんー成長の不思議な道のり」2006年10月22日放送. NHKエンタープライズ, 2007 (DVD)
- 3) 田中昌人・田中杉恵「あそびの中にみるシリーズ・発達診断の実際①あそびの中にみる1歳児, ②あそびの中にみる2歳児, ③あそびの中にみる3歳児」大月書店, 2009 (DVD)
- 4) 「3年間の保育記録①よりどころを求めて (38分), ②やりたいでも, できない (35分), ③先生とともに (46分), ④育ちあい学びあう生活のなかで (57分)」岩波映像, 2004・2005 (DVD)
- 5) 「幼児とのかかわりを考えるシリーズ④新しい生活が始まって (20分)」岩波映像 (DVD)
- 6) 「岩波保育DVDシリーズ. 幼児理解にはじまる保育①3歳児の世界 (23分)」岩波映像 (DVD)
- 7) 「幼児とのかかわりを考えるシリーズ⑥だってやりたいんだもん (20分)」岩波映像 (DVD)
- 8) 「岩波保育DVDシリーズ. 幼児理解にはじまる保育②せんせいだいき (20分)」岩波映像 (DVD)
- 9) 「岩波保育DVDシリーズ. 幼児理解にはじまる保育④友だちと出会う (22分)」岩波映像 (DVD)
- 10) 「幼児とのかかわりを考えるシリーズ③ふたりだったらチョーさみしそう (24分)」岩波映像 (DVD)
- 11) メディア教育開発センター「教育実習・幼稚園 保育を学ぶ (58分)」放送大学教育振興会, 1999年 (VHS)
- 12) 「岩波保育ビデオシリーズちっちゃいけどい? (22分)」岩波映像, 2001 (DVD)
- 13) 「岩波保育ビデオシリーズ. 幼児理解にはじまる保育⑤いっしょにやろうよ～伝え合う気持ち・5歳児～ (35分)」岩波映像 (DVD)
- 14) 「NHK スペシャルこども輝け命⑤裸で育て君らしく～大阪・アトム共同保育所」2003.7.6放送
- 15) 大豆生田啓友・中坪史典「映像でみる主体的な遊びで育つ子ども～あそんでぼくらは人間にな

る (60分)」エイデル研究所, 2016 (DVD)

- 16) 社会的行動様式に問題のある消極型の子どもについては, 祐宗省三・福島脩美『乳幼児保育臨床学』福村出版, 1991年, p.108-130を参照。
- 17) 積極型の子どもについては, 同上p.131-150を参照。
- 18) 図1の「幼稚園教育 (幼児教育) において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については, 『幼稚園教育要領 (平成29年告示)』『保育所保育指針 (平成29年告示)』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年告示)』フレーベル館, 2017年を参照。

(受稿 2019年10月11日, 受理 2019年11月27日)